

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋、夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。気がつくとも、地面が白い星形でいっぱいになっていた。これじゃふめない、これじゃもう動けない、と夏実は幹に体を寄せ、二人で木に閉じ込められた、そう言って笑った。

「ガタン！」
びっくりした。① 去年のことをぼんやり思い出していたら、机にいきなり戸部君がぶつかってきた。戸部君は振り返ると、後ろの男子に向かってどなった。
「やめろよ。押すなよなあ。⑦ オレがわざとぶつかったみたいだろ。」

自習時間が終わり、昼休みに入った教室はがやがやしていた。学校からの帰り、少し回り道をして ② 銀木犀のある公園に立ち寄った。

銀木犀は常緑樹だから一年中葉っぱがしげっている。それをきれいに丸く刈り込むので、木の下に入れば丸屋根の部屋のようにうだ。夏実と私はここが大好きで、二人だけの秘密基地と決めていた。ここにいれば大丈夫、どんなことから木が守ってくれる。そう信じていられた。

夕方に近くなっても日差しはまだ強い。木の下は陰になってすずしかった。
掃除をしているおばさんが、草むしりの手を休めて話しかけてきた。

「いい木だねえ、④ こんな時期は ① 木陰になってくれて。けど春先は、葉っぱが落ちて ⑦ 厄介なんだよ、掃除がさ。」
私は首を A。常緑樹は一年中葉っぱがしげっているはずなのに。

「え、葉っぱはずっと落ちないんじゃないんですか。」
「まさか。どんどん古い葉っぱを落つこととして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりやそうさ。でなきやあんだ、いくら木だって生きていけないよ。」

帽子の中の顔は暗くてよくわからなかったけれど、笑った歯だけは白く見えた。おばさんは、よしよと言って掃除道具を力えると公園の反対側に歩いていった。
私は真下に立って ⑤ 銀木犀の木を見上げた。

かたわいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半円球の宙にまたたく星みたいに光っていた。
ポケットからビニール袋を取り出した。花びらは小さく縮んで、もう色がすっかりあせている。

袋の口を開けて、星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。ここであつたかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違う誰かと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。
⑦ どちらだっていい。大丈夫、きつとなんとかやっていける。

私は銀木犀の木の下のをくぐって出た。
〈安東みきえ「星の花が降るころに」より〉

1 線ア～エの漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線①「去年のこと」とあるが、ここで「私」が思い出していることはどんなことだと考えられるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 銀木犀の木に閉じ込められてしまって嫌だったこと。
イ 銀木犀の花の香りは夏実の大好きな香りだったこと。
ウ 銀木犀の木の下の夏実と過ごして楽しかったこと。
エ 雪が降るように散る銀木犀の花が珍しかったこと。

3 線②「銀木犀」の木の下の空間のことを表した比喻を、文中から十字で抜き出して書きなさい。

4 線③「二人だけの秘密基地」とあるが、「私」と夏実はどのような場所だと感じていたか。「場所」につながるように、十字以上二十字以内で書きなさい。

5 A にあてはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 縦に振った
ウ 長くした
イ 横に振った
エ かしげた

6 線④「こんな時期」を、具体的に描いている表現を文章の中から十七字で探し、始めの三字を書きなさい。

7 線⑤「銀木犀の木」は、何を象徴しているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 周りの人々の愛情
ウ 夏実の優しさ
イ おばさんへの感謝
エ 楽しかった思い出

8 線⑥「かたわいた陽がく光っていた」という描写には、「私」のどのような気持ちが表れているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これからの新たな生活に対する希望。
イ 公園に別れを告げようとする悲しみ。
ウ 夏実との楽しい思い出に対するさびしさ。
エ 新しく葉っぱを生やす銀木犀への感動。

9 線⑦「私は銀木犀の木の下のをくぐって出た」とあるが、私は何を決意したのか。「決意した」の形で、「夏実」「友情」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

仮説

私は、これらの観察から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声が、警戒すべき対象としての「ヘビ」を意味する「単語」になっているのではないかと考えた。仮説を立てました。この「単語」とは、「ヘビ」や「タカ」といった異なる意味を伝える一つ一つの鳴き声だと定義することにします。

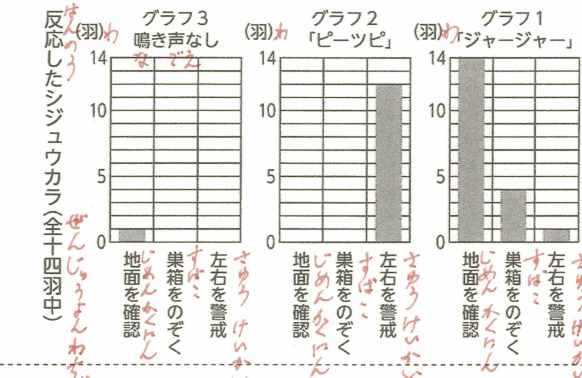
A

①、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であるかどうかを調べるには、どうすればよいのでしょうか。②、鳴き声を発する状況を記録するのはもちろんですが、それだけでは意味を確かめることはできません。ヘビの存在をつがい相手に伝えるために「ジャージャー」と鳴いているのか、それとも単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないからです。そこで私は、鳴き声を聞いたシジュウカラが、どのように振る「マウのかを」③、クワしく調べてみることにしました。もし「ジャージャー」という鳴き声がヘビを意味する「単語」であるならば、それを聞いたシジュウカラはヘビを警戒するようなしぐさを示すかもしれないと考えたのです。

④、あらかじめ録音しておいた「ジャージャー」という鳴き声を基に、三分の長さの音声ファイルを作成しました。シジュウカラのつがいのうち一羽が、ヘビを見つけてくり返し「ジャージャー」と鳴いている状況をまねたのです。そして、その音声をヘビのいない状況でスピーカーから流して聞かせ、シジュウカラの行動変化を観察しました。

B

シジュウカラは、「ジャージャー」という鳴き声を聞くと、巣箱が⑤、力かった木の周辺で地面をじっと見下ろしたり、時には巣箱の穴をのぞいたり、普段とは明らかに異なるしぐさを示しました(グラフ1)。



C

ヘビは地面から木をはい上り、巣箱に侵入して卵やひなを襲います。親鳥が卵やひなを守るためには、ヘビをいち早く見つけ出し、追い払わなければなりません。⑥「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くことは、親鳥がヘビの居場所をつき止めるうえで大いに役立つと考えられます。

しかし、この実験結果から、シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声がヘビを示す「単語」であると、十分に主張できるでしょうか。もしかしたら、「ジャージャー」という鳴き声は、「地面や巣箱を確認しろ」といった命令であり、それを聞いたシジュウカラはヘビの姿をイメージすることなく、それらの行動を取ったのかもしれない。

〈鈴木俊貴「言葉」をもつ鳥、シジュウカラより〉

1 線⑦⑧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直さない。

2 線「シジュウカラの行動変化を観察しました」を文節と単語に分け、その数を漢数字で答えなさい。

3 ⑨、⑩にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ しかし ウ また
エ では オ いっぱう

4 線①「仮説」とあるが、この仮説が正しいければ、「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラはどのような振るまいをするか。筆者は考えているか。文章中から十六字で抜き出し、始めの五字を書きなさい。

5 線②「鳴き声をうでできません」とあるが、それはなぜか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鳴き声を発する状況を記録しただけでは、シジュウカラの行動変化を観察することができないから。

イ ヘビの存在を伝える鳴き声は、本来「ヘビ」を意味する鳴き声ではないと考えられるから。

ウ ヘビの存在を伝えていないのか、単なる恐怖心から鳴き声を発しているのかが区別できないから。

エ 鳴き声を発する状況を記録しても、それはカラスやネコを意味する鳴き声かもしれないから。

6 線③「あらかじめ録音く作成しました」とあるが、これはどのような状況をまねたものか。次の文の□に入る言葉を五字以上十字以内で書きなさい。

＊シジュウカラのつがいの一羽が、□状況

7 線④「これらの行動」とは具体的にはどのような行動か。文章中の言葉を使って、「行動」につながるように十字以上十五字以内で書きなさい。

8 グラフ2から分かることは何か。四十字以上五十字以内で書きなさい。

9 線⑤「ジャージャー」という鳴き声を聞いて地面や巣箱を確認しに行くこととあるが、なぜシジュウカラはそのような行動をとるのか。理由がわかる一文を文章中から抜き出し、始めの五字を書きなさい。

10 この文章の構成について、A・B・Cにあてはまる組み合わせを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	理由	結果	考察
A	仮説の理由	B	C
ウ	仮説の検証	B	C
イ	仮説の理由	B	C
エ	仮説の検証	B	C